



松田美恵さんの絵

第 376 回 例会 1966.11.1 (火) 晴

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや (2) 0707・2838番

事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (2) 5775番

ABETTER WORLD  
THROUGH ROTARY  
(ロータリーでより良き世界を)

出席報告

本日の出席 会員数 58名  
出席数 50名  
出席率 86.21%  
前回の出席 前回出席率 79.31%  
修正出席数 53名  
確定出席率 91.38%  
欠席者 八丁目君、金井君、三井(徹)君、中台君  
菅原君、高橋君、手塚君、津田君

メークアップ

安藤君、阿部(襄)君、林君、金井君、中台君、男網君、大野君 鶴岡西RC

司会

会長 早坂源四郎君

ソング

我等の生業、君が代、パステーショング  
リーダー 三井(健)君

11月の誕生者

おくさま誕生

平田 圭三君	早坂左枝子様
三浦岩治郎君	平田 君子様
鈴木 善作君	本間 小静様
高橋栄五郎君	阿部清様(襄)
藪田 誠樹君	中山さくせ様

5年間皆出席者

佐藤(昇)君

4年間皆出席者

新穂光一郎君

10月100%出席

阿部(公)君、安藤君、阿部(襄)君、張君、千葉君、

早坂君、林君、平田君、飯白君、池内君、石井君、石黒君、五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、五十嵐(一)君、海東君、金井君、加藤君、小花君、小池君、今間君、嶺岸君、三井(徹)君、三浦君、三井(賢)君、三井(健)君、森田君、中台君、男網君、中山君、新野君、大野君、斎藤(栄)君、斎藤(得)君、佐藤(伊)君、佐藤(仁)君、佐藤(昇)君、莊司君、鈴木(善)君、新穂君、鈴木(弥)君、佐藤(忠)君、手塚君、藪田君、藪田君 45名

連絡事項

会長報告

○オーストラリア・ストーウエルRCから8月々報(会報)到着しています。その記事の中にリンゼ・ブラウンさんが鶴岡に来られた時の記事が載って居りましたので御紹介します…… 当日彼が車を降りるや鶴岡のロータリアンと夫人達から最高の歓待を受け、それは彼の鶴岡訪問中続いた。鶴岡クラブの組織、もてなし友好はすばらしいものだった。張博士と会員達は何れも地域社会で優れた仕事をしている。彼等はロータリーの原則通り良く実行している。リンゼの鶴岡訪問は両クラブ友情のキズナとなり、ロータリーの理想である国際親善と好意の助成に多大の貢献をしたとリンゼは感じている。この次私が日本を訪問する時は必ず鶴岡を訪問すると述べたリンゼの結びの言葉は彼の本当の気持である。早坂会長並びに張博士始め鶴岡の会員各位によりしく申し上げたい。

○喜多方RCよりの御礼状紹介…… 外人の来訪等は縁の遠いこの地方の事として、こういう機会もなく居りましたが、この度アイリーンさんをお迎え出来て嬉しく存じます。アイリーンさんも他クラブへの出席は始めてとかお聞き致しましたが、何かの縁かと感じられました。一度国際親善へ一歩乗出したと云う様な感じです。折角お出で下さいますので親睦委員、国際奉仕委員と相計り、山で茸取りをしながらゆっくり歓談して戴こうと計画を立てたのですが、あいにくの雨で室内

に閉込められてしまいました。折角お出で下さいましたにもかかわらず、格別のもてなしも出来ないで失礼致しました。しかし貴クラブの国際奉仕に対する熱心な御活動の模様並びにアイリーンさんの感想等をお聞き致し感銘深く感じました。私共のクラブでも大いに刺激され啓発され、近き将来には国際奉仕を一步一步前進努力致したいと渡部国際奉仕委員長共々皆で語り合った次第です。これを御縁に貴クラブと当クラブと友好を深め国際並びに国内親睦の目的が達せられます様御指導願います。……

○猪苗代RCよりパーナー到着

#### 委員会報告

社会奉仕……交通安全運動への協力として学童用横旗（ビニール製黄色の旗）500本を購入お贈りします。

#### 卓話

埋れた文化財について

会員 池内方平

○鶴岡に加藤清正の嫡子忠広公と清正の正室正応院（忠広の母）の墓が七日町本住寺にあることを知って居られる人は多いと思うが、それに関係ある文化財が今尚鶴岡に眠っていることを知っている人は少ないと思います。

豊臣家の忠臣で戦前は日本武将の亀鑑とされ、三才の童子も知っている加藤清正、その妻子の墓が鶴岡市七日町全照山本住寺にあることは周知のことで、英雄清正の霊は肥後熊本花園町本妙寺に眠り、妻子の霊は雪深き北国出羽庄内に寂しく流転の眠りを経て居たが近く加藤清正350年忌（昭和11年）を迎えた際、南と北に別れ別れていた夫妻父子の霊を対面せしめようという計画が進められ、其の際分骨して熊本に埋葬したとのことである。

加藤清正が豊臣秀吉の亡き後、遺子秀頼を補佐して傾きつつある豊臣の柱石となっておりましたが、豊臣が倒れて徳川幕府が江戸に幕府を樹てると共に、その政策の一つとして辛辣な腕を振ったのは豊臣家の藩大名、及び外様大名の取潰しであったわけです。

東北の雄藩最上家などもその政策の犠牲となった一つであります。肥後熊本の加藤家も同じく寛永9年改易され、清正の嫡子肥後の守忠は母正応院と共に出羽庄内酒井家にお預けとなって流されたのです。酒井家では西村山郡左沢1万2千石を加藤忠広に与え、後に鶴岡市外丸岡に移し忠広は承応2年6月8日この丸岡で亡くなっております。（享年54才）

○肥後守清正は永録5年6月24日尾張愛知郡中村に生まれ、幼名を夜叉若と云った。3才の時父清忠が亡くなり5才の折、同郡津島の鍛冶職五郎助宅へ移った。母及び叔父清重の薫陶は云うまでもないが、この頃近隣の妙延寺第9世円亭院日順大徳と云う名僧について経書仏法、書道の教えを受けたことがその人間形成の上に見逃すことが出来ない出来事であった。現在津島妙延寺には本堂の左側に清正公草紙掛松と云うのがある。この頃から清正には影の様に離れない2人の同年の腕白小僧があった。これが後年の飯田角兵衛と森本儀太夫で庄林隼人と共に加藤家3傑と称されたことは有名である。

1. 元亀元年夜叉若9才の時母に連れられて秀吉に引見し、月俸7人の扶持を与えらたて仕えることになった。両者が親戚関係にあるのは前述の通りだが、叔父

の清重も当時秀吉の幕下にあったのでその方からの勧誘もあったであろう。

2. 天正4年15才で元服し、名を虎之助清正と改め170石を与えられた。虎之助は弓馬軍律を折野弥次右工門頼広、兵法を殿中に召抱えられていた塚原ト伝縁者の塚原小才次、槍術は宝蔵院胤栄を師とし武を練った。
3. 天正11年賤ヶ嶽の役で七本槍の一つとして武名を轟ろかせたのは有名な話だが、元服からこれまでの武功は目を見張らせるものがある。虎之助はこの戦功により主計頭と改め一躍3,000石の加増を受け騎士20人、鉄砲150挺の隊長となった、年22才の時である。
4. 天正13年には父清忠の爲め本妙寺を摂津の浪速に創建している。この頃から日蓮宗に対する関心を示しているわけである。
5. 天正15年、秀吉の島津征伐の後仕末として封ぜられた佐々成政の後を受け肥後半国25万石の領主になった。清正27才の時である。
6. 天正17年、隣國小西領天草に内乱がおこり行長の請いを入れた援兵を送り、自らその先頭に立って天草の先將木山弾正を討取った。
7. 天正18年、小田原陣の際は命によって熊本に止まったが、この時陣中の秀吉から送られた書簡が現存している。なかなか丁寧なもので秀吉が清正に対する肉親的愛情の仄見えるものだ。
8. 天正20年（この冬文禄と改元した）になるといよいよ高麗陣が始まる。清正は同年3月釜山浦に着き、慶長元年6月同港を離れるまで丸五ヶ年余り朝鮮に止どまって転戦し、筆舌に尽し難い苦難を体験した帰国後石田三成、小西行長等の策により秀吉の勘気を受け所謂地震加藤の物語が生まれた訳である。同年の暮には早くも再出兵が始まり清正はうる山籠城を土産に同3年10月丸2ヶ年の戦を終えて帰国した。同年9月27日秀吉が逝去したからである。
9. 慶長5年母堂が亡くなったことは前述した。慶長5年9月の関ヶ原の大戦に於ては熊本に止どまり直接戦には参加しなかった。然し家康は清正のお蔭で九州の方は少しも手を下さずに治まったと云うので清正に肥後全国を与えた。其の後は治民に専心し又年と共に日蓮に対する信仰を深めたようである。

（次号に続く）

#### 幹事報告

11月誕生祝

米山記念奨学会奨学生候補募集要綱

会報到着 東京RC、宮内RC

PI加盟承認伝達式案内

11月13日 仁賀保RC

休会通知 村上RC、新発田RC、城南RC

例会日時間、会場の変更 秋田RC

猪苗代RC パーナー到着

#### スマイル

安藤君 工場移転落成

藪田君 県内RCゴルフ大会個人第3位

#### 会報委員会よりおわび

第372回例会10月11日の会報第373回と訂正願います。